

PTA あきた

～未来を拓く子どもたちのために、今できること～



2022.3.1

No.145

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail :info@pta-akita.com
http://www.pta-akita.com

令和3年度 ふれあい事業報告

潟上市立
東湖小学校

ふれあい
事業

東湖小学校創立70周年記念事業
「笑顔あふれる ふるさと東湖 とともに未来へ」



秋田市立
泉中学校

ふれあい
事業

創立40周年記念講話会



泉中の後輩の皆さんへ
自分の靴先が向く方向に
道はつづいていく。
この一歩、
またその一歩が、
わたしの道になる。
2021.11.5 小杉 由佳

湯沢市立
山田中学校

ふれあい
事業

YAMACHu SDGs
(総合的な学習の時間)



第47回秋田県PTA研究大会

潟上南秋田大会



オープニング画像 YouTubeチャンネルから

令和3年11月14日(日)、「第47回秋田県PTA研究大会潟上南秋田大会」は、研究大会初の録画によるオンライン配信で開催されました。開会行事から始まり、記念講演には高橋大洋様にzoomでご出演いただき、秋田県生涯学習センターの柏木睦先生とのQ&A形式で「GIGAスクール時代の子どもとネット～いま大人にもとめられていること～」と題して講演をいただきました。特別講演では秋田県初の女性理事、陶山さなえ様をお迎えし対談形式で、「個性を尊重し合いみんなが活躍できる社会に向けて」と題し、多様性とSDGs、社会に求められる人材についてご講演いただきました。アンケートからは引き続きオンラインでの開催や後日配信を希望する声も多くありました。今後もコンテンツ等の作成に精力的に取り組んでいきたいと思っております。参加していただいた会員の皆様、ありがとうございました。

大会アンケート
はこちらから▼



大会要項は
はこちらから▼



開会行事



潟上市立羽城中学校



会場：潟上市立羽城中学校



1. 開会のことば
2. 国歌・PTAの歌 清聴
3. 大会会長あいさつ(秋田県PTA連合会会長)
4. 大会実行委員長あいさつ(潟上南秋田大会実行委員長)
5. 来賓祝辞(秋田県教育長 安田 浩幸 様)
6. 大会実行委員会へ感謝状贈呈
7. 次期開催地代表あいさつ(美郷町PTA連合会会長)
8. 閉会のことば

特別講演



講師：秋田県理事 陶山さなえ氏
 演題：個性を尊重し合い
 みんなが活躍できる社会に向けて

記念講演



講演資料は
はこちらから▼



講師：高橋大洋氏・柏木睦先生
 (秋田県生涯学習センター)
 演題：GIGAスクール時代の「子どもとネット」
 ～いま大人にもとめられていること～

第69回日本PTA全国研究大会 北九州大会

「じりつ、創造、尊重、調和、そして成長」
～ひらこう未来のとびら・やっぱPTAっちゃ～

コロナ禍の中、準備を進められてきた本大会は、初のオンライン配信での開催となりました。

2021年8月21日(土)13時より、会場では感染対策を十分に行いながらライブで配信されました。大会スローガンのもと多彩なゲストを迎えたトークセッションはアフターコロナでの活動や保護者としての在り方、子育てにとって非常に有意義なものでした。どんな時も歩みを止めず、次世代につなぎ、ともに学び成長するPTAの在り方を再確認した大会でした。

およそ、2万を超える視聴があったと報告がありました。参加していただいた会員の皆様、ありがとうございました。来年度は山形でお会いしましょう。



第53回 日本PTA東北ブロック研究大会 盛岡大会

盛岡大会に参加して

第3分科会
パネリスト

秋田県PTA連合会副会長 清水 隆 成

令和3年9月4日、第53回日本PTA東北ブロック研究大会盛岡大会が開催され、私は第3分科会でパネリストを務めさせていただきました。当大会は、盛岡市でリアル開催すべく各種準備が進められましたが、最終的にはすべての行事がオンライン配信となり、当分科会のみがライブ配信、他は収録後に動画をアップするという方式となりました。

私が参加した第3分科会【家庭教育】は、「子どもの個性を伸ばそう。そして共に学び合おう。子育てと親育ち。」という研究内容で開催されました。前尼崎市教育委員の仲島正教氏より「優しさという温かい貯金」というテーマで基調講演をいただき、その後、仲島先生も交えパネルディスカッションが行われました。ディスカッションの途中で、仲島先生の回線が切れてしまうという大きなトラブルもありましたが、そこは元IBC岩手放送アナウンサーの伊藤コーディネーターが、何事もなかったかのようにうまく切り抜け、各パネリストが三者三様の実体験を交えた意見交換をすることができ、全体としてよいパネルディスカッションになったと分科会メンバーで自画自賛しております。

開催準備中には盛岡市に集まり打ち合わせ会を行ったこともありましたが、秋田県PTA連合会メンバーはリモート参加を選択しました。最終的に私自身は分科会メンバーとリアルでは一度も顔を合わせることができなかったのですが、岩手県、青森県、秋田県のメンバーが、zoomを利用しながら打ち合わせを重ね、無事にリモートライブ分科会を配信することができました。分科会メンバーの皆さんと一堂に会し、岩手県民情報交流センター(アイーナ)から大通りでの反省会まで盛岡を満喫したかったなあという思いはありますが、今回のように一つの大会を通し、フルリモートでパネリストとして参加したということは、新時代の在り方を一足先に経験できたのだなあ嬉しくありがたく思っています。

パネリストは「火の玉」

第2分科会
パネリスト

横手市PTA連合会会長 園部 勇 人

「事件事故の無い環境創りがPTAの役割」をモットーに、平成26年醍醐小学校PTA会長就任、27年度平鹿町PTA連合会会長、令和3年平鹿中学校PTA会長、令和3年度横手市PTA連合会会長、令和3年第53回日本PTA東北ブロック大会盛岡大会第2分科会パネリストに選任。途中、第41回秋田県PTA研究大会横手大会情報交換会部門長、第50回日本PTA東北ブロック研究大会秋田大会第4分科会運営委員と務めて、自身もかなり熱い方の人間だと思っていました。しかし上には上がいる例えのとおり、今回正に「火の玉」の様な方々に出会うことになったのです。第2分科会を報告するにあたって、研究内容「PTA活動の不易な面と改善すべき面」で語られた言葉の一部を紹介することで代えさせて頂きたいと思います。

第2分科会語録

- 語録一 「大人が変わる=子供が変わる」
- 語録二 「賛同者、役員は自分で探す」
- 語録三 「PTAは使うもの」
- 語録四 「減らすことへの意識を持つ」
- 語録五 「共感身近な役員から広げよう」
- 語録六 「自ら楽しむPTAを」
- 語録七 「繋ぐ思いがPTA運営の原点」
- 語録八 「やりながら学ぼう」
- 語録九 「PTAとは支え」
- 語録十 「PTAとは故郷づくり」 等々

熱い気持ちと明確な信念を持ちつつも時代に対応していくしなやかさと軽やかなフットワークをパネリスト同僚の皆様から収穫してきました。昨年度は、あらゆる行事が感染防止のための中止という形で流行の終息を待つ姿勢をとって来ましたが、今回の研究大会は「感染症時代でも方法はある。」のメッセージを送ってくれたと捉えています。

分科会の熱を冷ましながらの帰り道、大曲を過ぎたあたりに横手市PTA連合会研修会のアイデアが湧きました。キーワードを整理し、ワクワクしながらの横手市自宅到着でした。



教育 懇談会

「令和3年度秋田県PTA連合会教育懇談会」は開催に向け準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、昨年引き続き残念ながら開催を見送らせていただきました。本来であれば懇談の中で様々な意見交換があり、互いに良い波及効果を生む場でございますが、本年度も書面にて回答をいただき、会員の皆様には広報誌及びホームページにてご報告させていただく形となりました。令和4年2月3日(木)、秋田県教育庁において、安田浩幸教育長より加賀屋久人秋田県PTA連合会会長へ回答書が手渡されました。

〈質問事項〉

「ICTの授業」について、タブレットが1人に1台貸与されている。現在すでに授業の中で使用されていると思うが、ICTに対しての先生の指導力の自己評価が小・中学校ともにとっても低く、活用がされていないのではないかと学校運営協議会などで話題になっている。先生の研修等で対応を進めていると思うが、社会が求めるスピードに追いついていないと感じる。プログラミングが授業に取り入れられる今、その分野に明るい専門職を採用し、世界に向けて強い秋田の子どもたちを育成する認識をもって指導力の強化を図っていただきたい。コロナが収まったとしても生活や仕事の在り方が変化した今、今後、通常の対面授業に戻すことで、ICTが疎かになり時代に逆行するようなことであってはならないと感じる。保護者としては、リモート授業も含めた現在の活用の状況、および秋田県としては今後どのような形で、発展させ活用していくのか、展望と構想を知りたい。また、県教育委員会、市町村教育委員会で取り組み方への温度差があるように感じている。プロセスは様々であっても方向性や目標を一にすることは「誰一人取り残さない」ということに繋がると思うが、現状と今後の進め方について聞きたい。また、課題があれば教えてほしい。

- (1)「ICTを活用した授業」の現在の実施状況
- (2)県教育委員会としてのICTを活用した教育の今後の展望と構想

〈回答〉

(1)について

今年度は、まさしくICT元年であり、多くの学校が試行錯誤を積み重ねた一年であったと捉えている。5月実施の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙結果では、週一回当たりの活用率は、小・中学校とも30%台であったが、8月に文部科学省が実施した「端末利活用状況調査」では、小学6年生の約92.8%、中学3年生の約88.8%が「週に数回活用している」と回答しており、本県のICTの活用状況が大幅に改善されていることが分かる。このような成果は、例えば、ICT機器の活用が得意な若手教員を抜擢して校内研修を進めたり、健康観察に1人1台端末を用いるなど、日常的なことから取り組んだりして学校全体で教育のICT化に取り組もうとする学校の創意工夫によるところが大きかったと捉えている。次年度以降は、ICTの活用を通して、これまで本県学校教育が積み上げてきた「秋田の探究型授業」を更に充実させることに加え、児童生徒に必要な資質・能力や情報活用能力を育成するために「ICTをどう使うか」という視点から様々な実践が行われることに期待している。

(2)について

県教育委員会が今後取り組むべきこととして、①緊急時に端末の持ち帰りができる環境の整備、②教員のICT活用指導力の向上、③ICTの活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進の三つが挙げられる。緊急時の持ち帰りや教員のICT活用指導力の学校間格差は、児童生徒のICT活用能力に直結する。持ち帰りに関する通信環境の整備については、市町村教育委員会や保護者への理解と協力をお願いしていくとともに、教員のICT活用指導力の向上については、ICT活用のモデル校事業の成果を全県の小・中学校に発信するなど、教員のICT活用指導力の向上に資する情報提供を積極的に行っていきたい。また、今後は、ICTの活用により、児童生徒の個々の興味関心や習熟の度合いに基づいた、より個別な学習の充実や、他の学校・地域や海外との交流などにより、今までなしえなかった対話的で協働的な学びも可能になる。県教育委員会としては、ICTの活用がもたらす新しい可能性についても注視し、これからの持続可能な社会の創り手として生きる子どもたちに必要な資質・能力の育成について、学校の取組を積極的に支援していきたいと考えている。



〈質問事項〉

コロナワクチンの12歳未満の接種について不安のある保護者も多数いる。県としての対応は接種の方向だと思うが、本人、家族、教職員が拒否した場合の対応をどのように考えているのか。いじめ等につながる事例でもあり、子どもとともに大人への理解の求めが必要と思う。PTAとして互いに協力できることを並行して進めていければと考えるが、県教育委員会では現在検討、もしくは課題となっている事項はあるのか。また、コロナ関係で勉強面や精神面での影響はどれほどあるのか。不登校児童生徒が増えたのか、一方でオンラインによって不登校から復帰できた例もあると聞く。不登校児童生徒に対するリモートでの効果について教えてほしい。

- (1) ワクチン接種を拒否した児童生徒への対応についての県教育委員会の方向性と課題
- (2) コロナ禍における勉強面や精神面での子どもたちへの影響
- (3) コロナ禍による不登校児童生徒の現状
- (4) 不登校児童生徒に対するリモートでの効果

〈回答〉

(1)について

ワクチン接種は強制ではなく、あくまで本人の意思に基づき行われるものである。国では、周囲から接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをしたりしないよう国民にお願いしている。県教育委員会においても、嫌がらせや誹謗中傷等の行為は断じて許されないものであること、加えて、児童生徒等のプライバシーに配慮することなどについて、各市町村教育委員会を通して各学校にお伝えしており、これからも機会を捉えてお願いしていく。併せて、嫌がらせや誹謗中傷等の行為について、学級活動や道徳科の題材として取り上げるなど、児童生徒一人一人の心に響くような指導を行っていく。保護者の方々に対しても、学校ホームページやPTA等を通して、差別や偏見、誹謗中傷等を許さないこと、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する理解と協力などについてお願いしていきたい。

※参考「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けての文部科学大臣メッセージ」(令和2年8月)を県から配付

(2)について

昨年5月に実施された全国学力・学習状況調査では、新型コロナウイルスの学習への影響について心配されたが、本県の児童生徒は総合的に大変良好な状況であった。また、児童生徒質問紙の新型コロナウイルス感染症の影響に関する項目からは、感染拡大後も教員と児童生徒の関係は安定しており、児童生徒は規則正しい生活を心がけ、精神的に安定した生活を送ることができていたことがうかがえた。

(3)について

「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省)では、本県の公立小・中学校の不登校児童数は1,055人で、令和元年度よりも100人増加している。不登校の主なきっかけは、小・中学校ともに「無気力、不安」が最も多く、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談回数も増加している。新型コロナウイルス感染症と不登校児童生徒数の増加、スクールカウンセラー等への相談回数の増加について、その関係性は明らかでないが、コロナにより学校や家庭の環境が大きく変化したことは、児童生徒に何らかの影響を及ぼした可能性は否めない。

令和2年の3月以降、感染拡大防止のため学校は臨時休業となった。臨時休業が明けても、学校では様々な教育活動が制限され、運動会や修学旅行、学校祭などの子どもたちが楽しみにしている行事も延期や中止等を余儀なくされた。大人たちは、「ステイホーム」を合い言葉に在宅勤務や自宅待機の機会が増えた。自宅で家族とともに過ごす時間が増加したことは、家族の親密化をもたらす一方で、家族関係が悪い方に向かってしまったり、閉塞感を感じたりする児童生徒が少なからず存在したことが想像できる。子どもたちの成長に寄与し、支える場であるべき学校や家庭の環境が大きく変化してしまったことが、不登校児童生徒が増加した要因の一つになっているのではないかと考える。

(4)について

不登校児童生徒が、自宅においてICT等を活用した学習活動を行い、校長が出席扱いとしているケースは全国的に増えてきている。ICT等の活用によって、復帰できた例については把握していないが、不登校児童生徒の一人一人の状況に応じて、適応指導教室やICTを活用した学習支援など、多様な教育機会の確保に今後も努めていく。

※参考「自宅におけるICT等を活用した学習活動を指導要録上出席扱いとした児童生徒数(令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査/文部科学省)」

小学校(国公立)	全国	820人
中学校(国公立)	全国	1,806人
計		2,626人

優良PTA文部科学大臣表彰 学校紹介

みんなで育てる浜口の子ども

三種町立浜口小学校PTA会長 金子 勝洋



この度、私ども浜口小学校PTAは文部科学大臣表彰を受賞させて頂きました。歴代のPTA会員の皆様と地域の方々のご尽力に感謝申し上げます。

本校のPTA活動は、小規模校であるため全世帯が必ず役員が専門部に所属することとしています。

特に力を入れている活動としては、安心・安全の学校づくりへの協力が挙げられます。各地区の自治会長やボランティア、民生児童委員などを中心にして、PTA全世帯や教職員が加わり、児童の登校の安全を見守ったり、集団登校への付き添い、交通安全教室への協力などを行ってきました。

また、子どもたちの学習支援にも力を入れています。子どもたちは長年、サツマイモの栽培・収穫・販売活動をしているのですが、土作りやマルチ張り作業、店頭販売、サツマイモを使った商品開発などに積極的に協力してきました。その他にも田植えや稲刈り、家庭科の裁縫、昆虫採集、福祉体験などで子どもたちの活動をサポートしてきました。

このように子どもたちの活動に積極的に関わることを通して、PTA会員同士の交流を深めていきたいと考えております。これからも地域とのつながりも大切にしながら、子どもたちのよりよい環境づくりができるようPTA会員一同力を合わせて尽力して参りたいと存じます。



優良PTA文部科学大臣表彰受賞

男鹿市立払戸小学校PTA会長 泉 裕樹



この度、私ども払戸小学校PTAは優良PTA文部科学大臣表彰を受賞させていただきました。

今回の受賞は、長年受け継がれてきた活動を評価していただいたものだと思います。歴代の会長をはじめ、PTA会員、ご協力くださった地域の皆様のおかげで受賞に至りましたことを感謝申し上げます。

本校のPTA活動を紹介します。校外生活部では、長期休業明けの他に春・秋の全国交通安全運動期間に合わせ、学校運営協議会の委員と共に、朝のあいさつ運動を行っています。また、毎年夏に実施している廃品回収では、チラシを全戸に配布して地域住民に活動を周知し、協力を呼び掛けている。「きげん札」作成や、長期休業中の地域巡回日誌で子どもたちの安全を見守ったりすることも伝統です。その他、広い学校菜園を農機具で耕したり苗植えや収穫の手伝いをしたりしています。地域の「畑の先生」方から畑管理のノウハウを引き継ぎ、共に汗を流しています。文化部主催で親子人権標語の審査を開催していることなども払戸小学校PTAならではの活動と言えると思います。

令和三年は、三月に十四名が卒業し、四月に九名が入学しました。年々、子どもの数が少なくなっていく中ではありますが、「地域と共にある学校」を目指して、PTAとして活動していけたらと考えています。そのためにも、地域住民とのつながりを今まで以上に大切に、子どもたちが地域の素晴らしさや豊かさを実感し、「払戸っていいところだなあ。」「こんなに払戸ってすごかったんだな。」と、感じるができるように支援していきたいと考えています。今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年度表彰一覧

優良PTA文部科学大臣表彰

- ・三種町立浜口小学校PTA
- ・男鹿市立払戸小学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

- (団体)
- ・潟上市立天王南中学校PTA
 - ・横手市立朝倉小学校PTA
- (個人)
- ・赤坂 勲 秋田県PTA連合会 副会長
 - ・今津谷 健 秋田県PTA連合会 副会長
 - ・森川 悌一 秋田県PTA連合会 副会長
 - ・清水 隆成 秋田県PTA連合会 元委員

東北ブロックPTA協議会会長感謝状・表彰状受賞者

- 【感謝状】・吉村 昌之 秋田県PTA連合会 前会長
- 【団体表彰】
- ・鹿角市立花輪小学校PTA
 - ・能代市立浄城南小学校PTA
 - ・男鹿市立船川第一小学校PTA
 - ・秋田市立下北手小学校PTA
 - ・秋田市立下浜中学校PTA
 - ・秋田市立泉中学校PTA
- 【個人表彰】
- ・佐々木 晃吉 大館北秋田PTA連合会 前会長
 - ・菅原 徳之 潟上市・南秋田郡PTA連合会 副会長
 - ・荒木田 浩生 仙北市立生保内小学校PTA 前会長
 - ・照井 元 横手市PTA連合会 前会長
 - ・佐藤 和明 湯沢雄勝PTA連合会 前会長

秋田県三行詩コンクール入賞者

- 【小学生の部】
- ・由利本荘市立由利小学校 2年 高橋 直央
 - ・横手市立増田小学校 1年 高橋 衛
 - ・由利本荘市立由利小学校 4年 木村龍乃介
 - ・由利本荘市立由利小学校 4年 三浦 琉翔
 - ・由利本荘市立由利小学校 5年 尾留川太一
- 【中学生の部】
- ・秋田市立勝平中学校 2年 高橋 十楽
 - ・大仙市立大曲中学校 1年 竹村 心那
 - ・大仙市立大曲中学校 1年 村上 友実
 - ・大仙市立大曲中学校 1年 松井 文那
 - ・大仙市立大曲中学校 2年 安達 帆夏
 - ・大仙市立大曲中学校 1年 高橋 暖永

- 【一般の部】
- ・由利本荘市新山小学校PTA 内藤 裕子
 - ・横手市立浅舞小学校PTA 小俣 寛子
 - ・横手市立栄小学校PTA 和賀 幸子
 - ・横手市立栄小学校PTA 照井 伸子
 - ・横手市増田小学校PTA 森野真美子

- 【団体特別賞】
- ・由利本荘市立由利小学校
 - ・大仙市立大曲中学校

郡市 PTA だより

かづの

●コロナ禍のPTA活動



毎年恒例の「鹿角のPTA活動を考える会」は、例年同様に青少年育成市民会議「青少年を育てる市民のつどい」との共催で実施しました。中学生による「わたしの主張発表」、子ども芸能発表としての「花輪中学校スーパーミュージック」、昨年度リモート講演だった秋山邦久氏による「子どもや親と向き合い、上手に話を聞くスキルを身につけよう・改」と題した講演などといった内容で、好評のうちに終えることができました。会員数の減少という現状での効果的なPTA活動の在り方を考えると、共催といった取組が今後も効果的に行われていけばよいのでは、と考えています。

昨年度コロナ禍でなかなかできなかった母親委員会の活動は今年度予定通り実施できました。今後も感染対策を講じながら「どんな活動が可能か?」を模索しながら実践を積み重ね、鹿角ならではの特色を生かしながら活動を進めていきたいと思っています。

大館・北秋田

●心豊かにたくましく生きる子どもを育てる PTA活動の創造と実践



本来であれば、9月25日に大館・北秋田PTA連合会研修会及び表彰式が開催され、この会報で開催の御礼や大会の成果について触れる予定でしたが、同時期に新型コロナウイルスが感染拡大したことを受け、やむを得ず中止という措置を取らせていただきました。

例年、研修会の前には表彰式を行ってありますが、今年度受賞された25名の方々には各校で表彰式を行っていただきました。また、受賞代表者1名には事務局までご来校いただき、規模を縮小しての表彰式を行いました。受賞者の皆様には、長年に渡る地域のPTAの活性化、発展にお力添えをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

未だ新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、これまでは考えられなかった対応も強いられていますが、来年度以降は以前のような対面での通常開催ができることを心より願っています。

能代市山本郡

●つなげよう!子どもたちに明るい未来を!



昨年度に引き続き、郡市PTA連合会総会、メイン行事の講演会が、コロナ禍の影響により中止せざるを得なくなりました。また、県・東北・全国のPTA研究大会もすべてオンライン開催になり、コロナの怖さを感じずにはいられませんでした。

さて、このような厳しい状況ではありましたが、各小・中学校の単位PTAにおいては、工夫を凝らして様々な活動が行われていたようです。

小学校においては、地域の特色ある行事と関連した親子レクが多く開催され、好評を博していたようです。中学校においては、文化祭等への協力を通して、学校とPTAが一体となった様子を伺うことができました。

それぞれの単位PTAで、「今、子どもたちにできることは何か」という思いを念頭に取り組んだ成果だと思います。こういう時だからこそ、前向きにとらえ、来年度以降も能代山本の力を一つにしていきたいと思います。

潟上市・南秋田郡

●初のオンライン開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続き今年度も定期総会、PTA会長会議は書面での開催となりました。

今年度は県PTA研究大会が当地区で開催されるということで、昨年度から実行委員会を立ち上げ、準備を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、どのように開催するか検討していたところ、全国PTA研究大会、東北ブロック研究大会がオンラインでの開催となりました。県PTA連合会事務局と連絡を取りながら、これまでのように一堂に会しての実施は難しいが、何とか実施できないかを実行委員会で話し合い、オンラインでの開催となりました。初めての試みのため、今回は事前収録した開会行事と記念講演、特別講演を配信しましたが、たくさんの方々にご視聴いただきました。ありがとうございました。

コロナ禍で活動が制限されていますが、子どもたちの健やかな成長のために今後も創意工夫しながらPTA活動を充実させたいと思います。



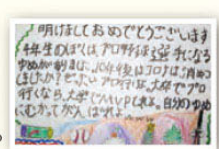
男鹿市

●ささやかな取組を今後につなぐ

毎年行っているほとんどの事業が、今年度も感染症拡大防止のため中止となってしまいました。PTA研修会、校長・教頭・PTA正副会長懇談会、親善ソフトバレーボール大会など、会員が相互に親睦を深められる有意義な事業がこの2年間全くできず大変残念に思います。

その中で唯一できたのが、昨年度から始めた「10年後の私に年賀状」という地域貢献施策への取組です。これは、二分の一成人式に関連させて10年後の自分に向けて年賀状を書き、二十歳を迎えたときに受け取れるよう計画したものです。昨年度同様、PTA連合会が男鹿市の全小学校に呼び掛け、「秋田ふれあい事業」の補助金を活用して取り組みました。コロナ禍の中で大変な思いをしている小学4年生の子どもたちに、明るい未来を思い描いてもらいたいと企画したものです。

ささやかな取組でも、今後につながればと思っていますが、令和4年度から学校統合が始まり、連合会の運営が年々厳しくなっていこうとすることが、今後の大きな課題でもあります。



秋田市

●新たな取り組み「オンライン配信」

今年度はコロナ禍において「何もできない」ではなく、「何かできることを」と試行錯誤しながら活動してきた1年でした。

◎6月「会報の作り方研修会」をHP上に資料を掲載する形で開催。

◎12月秋田市環境部環境都市推進課と共催で「野菜ソムリエに聞く！野菜の保存と活用レシピ！～親子で楽しむ食べきりアイデアカフェ～」をYouTubeで配信。

第1部食品ロス削減・生ごみ減量講座

第2部冬野菜使い切りクッキング講座

◎1月「寄り添い守ろう 子どもたちのこころ」と題して、YouTubeによる

限定配信。

第1部不登校編 第2部いじめ編 第3部ネットトラブル編

YouTube配信という新たな試みでしたが、配信期間を1か月ほど設けたこともあり、より多くの会員のかたに見ていただくことができました。自宅で、しかも都合の良い時に見ることができるというプラスの面があったようです。

今までの枠にとらわれず、今後もWithコロナ、Afterコロナを見据えた活動を充実させていきたいと思っています。



由利本荘市

●オンライン講演会

今年度も、コロナに翻弄されほとんどの活動ができない1年となってしまいました。

そうした中で唯一実施出来たのが、オンラインによる講演会でした。通常の講演会実施が難しい状況となり、中止の声もありましたが、講師の安川雅史先生のご厚意により、オンラインでの講演を実現させることができました。演題は「子どもを取り巻くネット環境」で、90分間で講演をいただきました。大変わかりやすく、説得力のあるお話をいただくことができました。今回は、録画配信の形をとったことで、一般の保護者の方々や地域の方々にも聴いて頂くことができ、非常によかったと思っています。

来年度は、どうなるかわかりませんが、それぞれの地区で出来ることを、出来る形でやっていたらと思っています。



にかほ市

●コロナ禍の中で

にかほ市PTA連合会には、研修事業部、広報事業部、生活安全部があり、それぞれが事業を行っています。5月の総会において、講演会、会報の発行、市への要望事項のとりまとめ、教育懇談会等の事業を計画しましたが、理事会で検討した結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会、教育懇談会を中止としました。また、理事会の中で次の2つのことが提案されました。

①PTA活動は、人とのつながりをつくる大切な活動なので、各事業について、リモート開催などを検討してはどうか。

②事業を中止した分の予算の用途について、各校のコロナ対策に使ってはどうか。②については、各校にコロナ対策用品購入費として配分し、使ってもらいました。

新型コロナウイルス感染症の終息を願いますが、今後もどうなるかわかりません。新たなPTA活動のあり方を模索していきたいと思っています。



大仙市

●GIGAスクール構想について双方向の研修会

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度も活動を制限されています。新株の流行の足音も聞こえてきて、感染の状況に目が離せません。ただ、本市PTA連合会では、令和4年1月28日、市内30の小・中学校と8つの園の会長さんにご案内を差し上げ、研修会を予定しております。

研修内容は、現在進められているGIGAスクール構想についてです。市教育委員会から進捗状況についての説明があり、その後、保護者の立場で会長さん方と意見交換をする場を設定しました。持ち帰ったときのWi-Fi環境に関することはもちろん、リテラシーに関する話題も出てくるのが予想されます。GIGAスクール構想は、どうしても教育委員会や学校からお願いやお知らせするという一方通行になってしまいがちですが、今回、保護者のみなさんと、質疑応答という形で研修会をもつことにしました。忌憚のない意見が寄せられることを期待しています。



仙北市

●コロナ禍でのPTA活動

仙北市PTA連合会では、例年、講師を招聘しての研修会を開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大を鑑み、残念ながら昨年に続き研修会の開催を断念いたしました。

そのような中、役員会では研修に代わる事業について協議を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により子どもたちが屋内で過ごす時間が多くなっていることから、学校や家庭での読書の時間に役立ててもらいたいという願いのもと、今年度も市内各小・中学校に図書を贈ることにしました。図書の選定については、市の学校図書館支援員からアドバイスをいただきました。子どもたちがじっくりと読むことができるように幅広いジャンルからの図書を選定し、市内各学校に10冊ずつ図書を贈呈することができました。

今後も各学校及び会員での情報交換等を行いながら新たな活動を模索し、コロナ禍でのPTA活動の充実を図っていききたいと思います。



美郷町

●親力アップ講演会に学ぶ

今年度も昨年度と同様に本PTA連合会での事業も制限された中での取組となりました。7月には例年開催している校外指導部会を、各学校のPTA会長、副会長、校外指導部長の出席のもとに開催することができました。また、町教育委員会と共催している親力アップ講演会を美郷中学校と六郷小学校で開催しました。美郷中学校では「考え次第で世界が変わる」と題してプロマジシャンのブラボー中谷氏から、六郷小学校では「インターネットに潜む危険について」と題して秋田

大学の林良雄氏から講演をいただき、何事もプラスにとらえて生活することの大切さやインターネットの上手な使い方などについて一緒に考えることのできる貴重な機会となりました。

来年度は県PTA研究大会美郷町大会が開催されます。開催に向けた取組はまだ始まったばかりではありますが、多くの皆様に参加していただけるよう、美郷町PTA連合会会員一同で準備を進めてまいります。



横手市

●よこて PTA TVストーリー

従来型研修会開催困難。研修が危機。我々の役割は？とモヤモヤ。しかし「課題にぶつかり悩んでいる人や学びを求めている人はいる。」感染症時代でも学びの機会を提供する方法はあるはずだし、よし何かやろう。

三役会にて。開催が難しい理由は何かな？「人が集る事、場所、時間に縛られる」こと？この辺は配信の形で解決できるな。学びのテーマは？コロナで変わった生活に課題がありそうだな。運動の機会が減って肥満やストレス増えているな→手軽な運動プログラムがあれば良いな。感染防止には免疫力増強だな→一番は食事面の改善だな。遊びがバーチャルになっているな。依存症という言葉も聞こえるし悩んでいる人が多いといわれているな。これらを調べてコンテンツ配信型研修を作ろう。

このように出来た事業の骨に、多くの皆さんが肉付けをして、「誰でも、何時でも、何処でも」の新研修事業は形を得、よこてPTA TVにて配信中です。



湯沢雄勝

●今できることを

昨年度に引き続き、本連合会としての活動は中止となりました。総会は紙面での開催となり、研修会も開催を見送りました。新型コロナウイルス感染症防止対策のためにできる限りの対策をしようという思いからの決断です。しかしPTAの取組として、湯沢市立稲川中学校では2学期に各学年のPTA研修部が中心となり講演会を開催しました。1年生は「SOSの出し方講座」で相談する勇氣について、2年生は「命の大切さ授業」で、交通事故被害者の方から命の尊さを教えていただきました。また、3年生はインターネットの安全・安心な利用について教えていただきました。

湯沢雄勝地区の小・中学校でもPTAや地域と連携し、様々な取組を模索した1年だったと思います。感謝申し上げます。厳しい状況はしばらく続くと予想され、来年度の実施も不透明ではありますが、理解と協力の中で知恵を出し合いよりよい連携・協働に向けて活動できるよう祈っております。





今年度をもって
PTA活動の区切り
(閉校)となる学校
があります。

- ①創立年月日
- ②児童・生徒数
- ③PTA会長名
- ④校歌



湯沢市立三梨小学校



①明治8年6月15日
②49名 ③瀬川 和也

作詞 紅川 草一
作曲 佐藤 長太郎

一 あけ雲そめる 大空に
国見の山を おおきつつ
ともに手をとり むねはって
強く正しく のびる子だ
あかるい あかるい 三梨小学校

二 みどりの風の さわやかな
皆瀬の流れ たたえつつ
ともになかよく かたかんで
清く明るく そだつ子だ
たのしい たのしい 三梨小学校

三 平和のかねの なりわたる
学びの處に はげみつつ
ともにやさしい まゆあけて
あすの日本を にかう子だ
おいしい おいしい 三梨小学校



三種町立下岩川小学校




①明治9年11月1日
②23名 ③川村 慎


作詞 近藤 武治
作曲 石井 五郎

一 麗らに明けし四方の山
下岩川の天地かな
花発しては鳥歌い
平和の霞たなびきて
中央に立ちたるわが校舎
歴史は永く光あり

二 水明らけき三種川
河畔に秋の兆すかな
学発しては風となり
倦まずたゆまず心身を
鍛う我等の学窓に
かかりて高し月のかけ



湯沢市立川連小学校



①明治9年5月26日
②102名 ③加藤 康

作詞 酒井 義一
作曲 小野崎 晋三

1 山川清き わがふるさと
ここ川連に そだつわれら
すこやかに まなびあう
ああ この学えんに

2 のぞみ大きく ころろにもち
つよく正しく のびゆくわれら
ほがらかに つとめあう
ああ この学えんに

3 やがてつくる たのしき町
めざすわれらの 新しきみち
けわしくも はげみあう
ああ この学えんに



秋田市立上新城小学校



①明治7年9月15日
②14名 ③宇佐美 平

作詞 鎌田 宏
作曲 菊地 三男

一 遠山の 木の芽の珠の
水上ゆたか 新城川よ
うるわしき 郷土にうけし
いのち われらの
こころよこころ きよらかに

二 若葉照る 学び舎の丘
そのかみ語る ゆかしき文化
新たなる ひかりうみゆく
つとめ われらの
のぞみよのぞみ 花とさけ
もみじしき 積む白雪に
姿ひいでし 杉の木立よ
若き日の しるしとたたえ
かざす ともがき
ほこりよほこり 高らかに



湯沢市立駒形小学校



①明治8年7月11日
②61名 ③日野 春雄

作詞 酒井田 景三
作曲 清野 健
編曲 草 薨哉

一 駒形の庄の 昔より
わたる野風の さわやかさは
はたらく よい子の
長い歴史を ふみしめて
今こそ強く たくましく
生たつ われらの歌ひびけ

二 皆瀬の川の水清く
流れる雲の かげやどす
話すことばの
いよいよ 正しく 美しく
今こそ 明るく 清らかに
伸びゆく われらに栄あれ

三 奥羽の山々 近く見て
山の彼方に 夢はこぼ
考える子の
きわめる力 いや増して
今こそ 花の咲きかおる
われら 駒形小学校



湯沢市立稲庭小学校



①明治8年4月4日
②47名 ③小野寺和也

作詞 稲庭小学校
作曲 小野崎 晋三
編曲 大野 桂二

一 清く皆瀬の流るるを
学ぶわれらの心とし
け高く強き大森を
生きるわれらの姿とす

二 恵み豊けきふるさとの
雄々しい祖先の息吹あり
緑あふるる丘の上に
古城の春のわかさあり

三 わつみ集まえるまなびやに
たのしき時を重ねつつ
心をみがき身をきたえ
母校の誉れいやまさん



男鹿市立男鹿北中学校



①平成2年4月1日
②22名 ③大森 静香

作詞 加藤 美香子
作曲 小野崎 孝輔

一 青く輝く 日本海
緑豊かな 男鹿半島
高き理想を 胸に抱き
集いて学ぶ うれしきよ
よき師よき友 いまここに
ああ 我らの男鹿北中

二 真山本山 仰ぐとき
あふるる英気 みちみちて
日々に来る わが母校
集いて語り 励み合う
若き希望は 明日に燃ゆ
ああ 我らの男鹿北中

三 松風かおる 山玉林
愛と情に 育くまれ
かがやく瞳 夢多く
集いて歌う たからかに
やがて世界へ 羽はたかん
ああ 我らの男鹿北中

『児童・生徒・PTA総合補償制度』について

補償項目

ケガの補償

細菌性・
ウイルス性
食中毒

熱中症

賠償事故の補償

バザー等の
提供飲食物
による
損害賠償法律相談
クレーム
対応費用PTA共催
活動中の
賠償補償

※学校管理下・PTA活動外等の起因により事故対象にならない場合があります。

保険金の手続き方法



補償項目・補償内容について

ケガの補償	補償項目	保険金額	
		※注1 ①学校管理下外(児童・生徒)	②PTA活動中(児童・生徒、PTA会員)
	死亡保険金	100万円	150万円
	後遺障害保険金(障害の程度により)	4万円~100万円	6万円~150万円
	入院保険金日額(180日限度)	1,200円	1,800円
	手術保険金	入院中 12,000円/入院中以外 6,000円	入院中 18,000円/入院中以外 9,000円
	通院保険金日額(90日限度)	800円	1,000円

※注1) 入院保険金、手術保険金、通院保険金は、事故の日からその日を含めて7日目以降においてなお、入院または通院した場合に限り、入院または通院を開始した日から保険金をお支払いします。

賠償事故の補償	補償項目		保険金額(お支払い限度額)
	PTA活動の遂行に伴う賠償責任 (自己負担額 5,000円)	対人	1名: 3,000万円/1事故: 3億円
	対物	1事故: 200万円	
保管物の損壊等による賠償責任 (自己負担額 5,000円)	対物	1事故: 10万円 保険期間中: 500万円	
提供飲食物危険補償 (自己負担額 5,000円)	対人・対物	1名・1事故/PTA活動の遂行に伴う損害賠償責任の対人・対物補償と同額 注) 保険期間中の限度額については、対人・対物それぞれの1事故あたりの限度額が適用されます。	
児童・生徒の賠償責任 (自己負担額 0円)	対人・対物 共通	1事故: 1億円	
法律相談・クレーム対応費用 (自己負担額 0円)		1事故: 100万円 保険期間中: 1億円	
付帯サービス		弁護士相談・紹介サービス	

PTA安全互助事業

PTA総合補償制度は、学校管理下外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、賠償事故の補償をしています。令和4年度の補償内容・加入要項を3月に各学校へお送りいたします。新年度のご加入をよろしくお願いたします。

令和
4年度

「みんなで育てる秋田ふれあい事業」 の募集について

令和4年度もPTA行事、PTA内の活動グループが主催する子どもを含めた事業に、予算内で上限5万円の助成を行います。応募要項は、年度初めにお送りする書面または、秋田県PTA連合会のホームページ「ダウンロード」からご確認下さい。

令和4年度 PTA研究大会 お知らせ

■第70回日本PTA全国研究大会 山形大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会 山形大会

大会主題：「人とひとのつながりを体感しよう！」
～あがらっしゃい精神の山形から～

開催日：令和4年8月26日（金）～ 27日（土）

会場：メイン会場
山形市総合スポーツセンター（山形県山形市）
サテライト会場
やまぎん県民ホール（山形県山形市）
酒田市民会館希望ホール（山形県酒田市） ほか

■第48回秋田県PTA研究大会 美郷大会

開催日：令和4年「秋」開催予定

会場：美郷公民館（予定）

※各大会において新型コロナウイルス感染症等の状況により、変更及び中止の場合があります。

新型コロナウイルス 感染防止支援について

■新型コロナウイルス感染防止のための学校備品を県内全小中学校へ贈呈しました

新型コロナウイルス感染防止の支援として、県内のすべての小・中学校へ対策品をお送りいたしました。支援品は以下の通りです。

- 不織布マスク 60枚入り 1,369箱
- ペーパータオル 100枚入り×42箱 317セット
- 生理用品 20枚入り 2,766箱

令和3年9月24日をもってすべての学校へ送付を完了しております。

なお、令和3年10月8日（水）に秋田県教育庁にて安田教育長へ目録をお渡しいたしました。



■新型コロナウイルス感染防止対策支援金を贈呈しました

新型コロナウイルス対策支援事業の一環として、県内の子ども食堂などをつなぎ、多岐にわたり支援を続けている特定非営利活動法人秋田県たすけあいネットあゆむ様にコロナ対策支援金を贈呈いたしました。県内の子ども食堂では現在集まったの食事はとれず、お弁当などを利用して提供を続けています。その際に使われる容器等の費用として使われる予定です。加賀屋久人会長より保坂ひろみ理事長に目録が手渡されました。



秋田県PTA連合会補償制度取扱会社



AIG 損保

AIG損害保険株式会社 北海道・東北地域事業本部 秋田支店

〒010-0001 秋田市中通2-3-8 秋田アトリオンビル10F

TEL: 018-801-2010 FAX: 018-801-2022 午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）